

子どもの医療費助成制度の拡充は

拡充を含め検討する

問 子どもの貧困問題がクローズアップされているが、被災地においてはさらに深刻と考える。子どもたちの健康を守るため、お金を心配せずに医療機関を受診することができ「現物給付方式」(窓口での医療費負担なし)と助成対象年齢の拡充が必要と考える。町の考えは。

佐藤町長 医療費助成制度の現物給付方式を取り入れた場合、国民健康保険に対する国庫支出金

減額措置されることから、そのような考えはない。助成対象年齢の拡充は、新たな子ども・子育て支援制度など各種施策の動向を注視しながら検討していく。

問 子どもの医療費助成は、本町は就学前までであるが、近隣市町村は小・中・高校卒業までの助成となっている。本町も他市町村と肩を並べる程度の助成をすべきではないか。

菊池国保介護課長 拡充を含め検討していく。

「災害で孤立しない町づくり」は

防災計画を適切に進める

問 東日本大震災の津波によって大浦・小谷鳥地区は道路が寸断され孤立状態となった。「災害で孤立しない町づくり」が重要と考えるが、同地区の防災計画について問う。

① 町道長林大浦線は宮古水産高校実習場裏手の

道路など、津波をかぶった所をどのように改良していくのか。

② 火災に備え、水利の確保と簡易ポンプの高台移転地域への設置を考

それ以外の区間は、大きな被害がなかったことから改良する計画はない。

② 水利の確保は、各地区で消防力の基準どおりに適切に進めている。軽可搬ポンプは9月中旬に第3分団婦人消防協力隊に整備し、配属先は第3分団屯所を予定している。

③ 道路の寸断により病人やけが人を運べなかった状況があった。高台の広場などにヘリポートを設置し、住民の命を守るべきでは。

③ 山田町地域防災計画では、災害発生時に防災ヘリコプターによる災害応急対策活動等を実施することとし、離発着場所の確保と安全対策を整えることになっている。

佐藤町長 ①がれきにより通行止めとなった長林大浦線は、浦の浜地区から船越家族旅行村芝生広場までの区間を山側に変更する改良計画になっている。

その他の質問

◆ 震災直後の旧山田病院(八幡町)の利活用は適切だったか



震災時、通行不能になった宮古水産高校実習場付近